

1. 件名：島根原子力発電所 基準地震動の変更が不要であることを説明する文書に関する面談について
2. 日時：令和3年10月20日(水) 11時00分～11時35分
3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室
4. 対応者（※：テレビ会議システムによる出席）
原子力規制庁 原子力規制部 地震・津波審査部門
内藤安全規制調整官、熊谷管理官補佐、佐口主任安全審査官、海田主任安全審査官、谷主任安全審査官、西来主任技術研究調査官、磯田係員、松末技術参与
技術基盤グループ 地震・津波研究部門
田島技術研究調査官※

中国電力株式会社 電源事業本部長 他6名※

5. 自動文字起こし結果
別紙のとおり
※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
6. 提出資料
〈〈本年9月29日に受取済み〉〉
 - ・島根原子力発電所2号炉の基準地震動に対する標準応答スペクトルの影響検討

時間	自動文字起こし結果
0:00:03	それを規制庁クマガエです。
0:00:05	これから島根原子力発電所 2 号炉の基準地震動に対する標準応答スペクトルの影響検討について。
0:00:12	ヒアリングを行いたいと思いますがよろしく願いいたします。
0:00:18	中国電力のアビルです。おはようございます。本日はヒアリングよろしく願いいたします。
0:00:25	お送りしている週に関しましてですね、一通り御説明させていただいてご質問を受けるといようないつものやり方でやらせていただきたいと思います。だいたい説明時間は 15 分ほど考えております。よろしく願いいたします。
0:00:41	規制庁クマガエです。はい、それではよろしく願います津波やろ。
0:00:44	先ほどヒアリングといいました今回面談で対応したいと思います。よろしく願います。
0:00:50	中国電力アビルです。失礼いたしました。
0:00:56	中国電力の井上です。それでは、御説明いたします資料ですけれども、9 月 29 日に提出させていただきました新島根原子力発電所 2 号炉の基準地震動に対する標準応答スペクトルの影響検討という資料に基づきまして御説明いたします。
0:01:15	資料をめぐっていただきまして 2 ページをお願いいたします。
0:01:21	2 ページへと検討方針を書いてございますけれども、上のほうには規則の解釈の抜粋ということで標準応答スペクトルの概要を記載しております。と地震基盤相当面、解釈のほうでは V_s2200 のところまで定義されておまして、そこで提起された標準応答スペクトルを右側に記載をしております。
0:01:42	下のほうに島根原子力発電所の検討方針を期待しております。
0:01:46	ちょっと下の左のところですけども、島根原子力発電所 2 号炉の基準地震動 S_s を策定している解放基盤表面のせん断波速度 V_s でございますけれども、こちら 1520 メーター/s ということで硬質な岩盤ではございますけれども、
0:02:02	先ほどの 2200 と比較しますと少し小さい値ということで、
0:02:07	あとそれを踏まえまして右側の未検討方針を記載しております。
0:02:11	標準応答スペクトルに対して、地震基盤相当面から解放基盤表面までの地盤増幅特性を考慮した上で、基準地震動 S_s-D と比較して影響を検討するということで、その工法につきましては、地盤増幅特性は、
0:02:26	基準地震動 S_s-D を地下構造モデルを介して地盤地震基盤相当面まで引き戻して、その引き戻しはと解放基盤表面で設定した基準地震動 S_s-D との応答スペクトル比を求めまして、標準応答スペクトルに乗じることで考慮すると。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:42	こういった方法で検討を実施しております。
0:02:45	続きまして3ページをお願いいたします。
0:02:51	こちら、先ほどの地盤増幅特性の考慮につきまして具体的な検討内容を記載しております。
0:02:57	まず左下の地下構造モデルで検討に用いるモデルですけれども、こちら島根原子力発電所の地震動評価に用いている地下構造モデルでございます、現行の基準地震動の S_s につきましてはこのモデルに基づいて策定をしております。
0:03:13	こちらのモデルですけれども、適合性審査のときにも説明しております参考資料のほうに具体的な内容は明日つけておりますけれども、2号にと3号の地下構造モデルを踏まえまして、敷地全体の地震動を安全側に評価できるモデルとなっております。
0:03:33	まず、こちらの地下構造モデルにおきまして、地震基盤相当面どこに設定するかというところですが、地震基盤相当面、先ほどの規則の解釈では V_s 2200mのところ異常と定義されておまして、
0:03:47	それを踏まえまして、こちらのモデルで V_s 2200m/s以上となり、さらにそれよりも深いところの層も V_s 2100メートル/s以上となる図で言いますと青線で書いておりますけれども、TPマイナス 955m、
0:04:05	V_s で言いますと 2730メートル/sのところ、こちらを地震基盤相当面に設定をしております。
0:04:12	一方で解放基盤表面につきましては赤で記載しておりますけれども、今日で言いますと一番上の所標高マイナス 10mで V_s 1520m/sのところ設定をしております、
0:04:24	時、地震、地盤、
0:04:28	地震地盤増幅特性をとしましては、こちら明日一つ二つ目の四角のところに書いておりますけれども、解放基盤表面の V_s 1520メートル/sで策定された実施基準地震動 S_s-D とこちらの地下構造モデルによる地震基盤相当面 V_s 2700名
0:04:47	2730メートル/sでの基準地震動 S_s-D の引き戻し派との音スペクトル比を算定いたします。
0:04:56	4ページをお願いいたします。先ほどの方法で実際に評価した応答スペクトル比をこちらの4ページに記載をしておりますが、左側が水平、右側が鉛直のものになっておましてこちらを標準応答スペクトルに乗じることで、地盤増幅特性を考慮いたします。
0:05:14	5ページをお願いいたします。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:05:17	5 ページ目に早速結果ですけれども、先ほどの地盤増幅特性を考慮して求めた標準応答スペクトルこちらが赤線になります。これ黒線が基準地震動 S_s-D になりまして左が水平右が鉛直でございます。
0:05:33	と赤線の地盤増幅特性を考慮した標準応答スペクトルは、前週気体におきまして路線の基準地震動 S_s-D に包絡されるということをごちらで確認しております。
0:05:46	6 ページをお願いいたします。
0:05:48	6 ページにつきましては先ほどの 5 ページの図のデジタル値をごちらに記載しております、数値でもって、基準地震動 S_s-D に包絡されるということをごちらで確認しております。
0:06:02	表の一番左側の周期につきましては、標準応答スペクトルのコントロールポイントを書いておきまして、表の中の赤で書いておきますのは、実施基準地震動 S_s-D のコントロールポイントを線形補間して求めている値になります。
0:06:20	以上が標準応答スペクトルの影響検討の結果でございます、続いて 7 ページをお願いいたします。
0:06:30	7 ページからですね先ほど S_s-D 、基準地震動 S_s-D を用いて応答スペクトル比を算定しておりますけれども、妥当性確認としまして S_s-D 以外の地震はを用いまして、二つの検討を実施しております。
0:06:46	まず(1)のところですが、 S_s-D 以外の基準地震動による応答スペクトル比の検討ということで、施設のRI以外の複数の基準地震動をもちまして同様の検討を行っております。
0:06:59	もう一つ(2)といたしまして、地震観測記録による応答スペクトル比の検討ということで、こちら敷地例え取れた地震観測記録を用いまして、音スペクトル比を算定して、 S_s-D で算定した場合と同程度となるかということを確認いたします。
0:07:17	8 ページをお願いいたします。
0:07:20	8 ページ目、まず(1)の
0:07:23	一つ目の検討、いつ S_s-D 以外の基準地震動による応答スペクトル比の検討ということでしたら協議意識島根原子力発電所の基準地震動すべて書いておりますけれども、こちら、赤枠で囲った S_s-D 以外の地震動につきまして同様の検討を行っております。
0:07:42	1 ページをお願いいたします。
0:07:46	こちら S_s-D 以外の基準地震動による検討の方法ですけれども、先ほどの S_s-D を用いた場合と、検討の方法は同じでございます、基準地震動評価

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	に用いる地下構造モデルに基づきまして、音スペクトル比を算定をしております。
0:08:05	10 ページをお願いいたします。
0:08:09	1 ページ目、応答スペクトル比の結果になります。
0:08:13	S _s -Dを含めて色分けをして書いておりました水素の利が赤線でその他の
0:08:20	基準地震動については他の色で書いておりますけれども、
0:08:25	S _s -Dを用いた場合とその他の基準地震動を用いた場合で、応答スペクトル比は同程度となるということをごちからで確認をしております。
0:08:36	11 ページをお願いいたします。
0:08:40	11 ページをごちから先ほどの応答スペクトル比を考慮した標準応答スペクトルと S _s -Dの比較を書いております。こちらにつきましても、すべての基準地震動
0:08:51	で評価した落とすウェイ標準応答スペクトルをすべて基準地震動 S _s -D 黒線に包絡されるということをごちからで確認をしております。
0:09:03	続きまして 12 ページをお願いいたします。
0:09:07	12 ページからが二つ目の検討ということで地震観測記録を用いた応答スペクトル比の検討になります。
0:09:16	島根サイトにおきましては、2015 年の 7 月から発電所の敷地内の第頻度ボーリング坑で地震観測を実施しております、
0:09:24	左の図でいきますと、オレンジ色の丸のところ、こちら 3 号の右側になりますけれどもこちらで地震観測を実施をしております。
0:09:33	地震計の設置深さですけれども、こちら真ん中のオレンジの破線で改定困った映像を見ていただきたいんですけど大深度ボーリングでは大深度ボーリング位置の 100 調査結果を書いておりますけれども、
0:09:47	TP マイナス 500m のところに地震計を設置しております、その V _s につきましては 2190 メーター/s と。
0:09:57	ということで、地震基盤相当面と同程度の岩盤中での観測記録が得られております。
0:10:04	こちらの大深度ボーリング孔でられた地震観測記録を用いまして、右側がこちらが地震動評価に用いる地下構造モデルを書いておりますけれども、このモデルを用いまして、解放基盤表面と地震基盤相当面の応答スペクトル比を算出いたします。
0:10:22	続いて 13 ページをお願いいたします。
0:10:26	こちらには、大深度ボーリング来賓の地点で TP マイナス 500m のところで観測された主な地震を示しております。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:10:35	こちらのエツ記録の抽出条件でございますけれども、マグニチュード 4 以上益金置ける 100km以内で注水系といたしまして、その結果、右の表み示します 23 地震を抽出しております。
0:10:49	結果、左の図を見ていただきましてもわかる通り、23 地震とれてるんですけれども、大間エリアとしてはですね大きく分けて三つのエリア鳥取県中部島根県西武それから広島県北部この三つのエリアで地震がとれているということでございます。
0:11:07	続いて 94 ページをお願いいたします。
0:11:10	こちらは地震観測記録の先ほどの地震の観測記録の最大加速度最大加速度の一覧を示しております。
0:11:19	右側に最大加速度を書いておりましてNSEWアップダウンへすべて書いておりまして、最大加速度は最大で 8Gal程度ということになっております。
0:11:28	これらのうち、音スペクトル比の検討を行う地震としましては、マグニチュードと最大加速度が大きいナンバー5ー2016 年鳥取県中部の地震とNo.15、2018 年島根県政府の地震、こちらの二つの地震を対象としまして、オートスペクトル比の検討を行います。
0:11:50	それで 15 ページをお願いいたします。
0:11:54	15 ページと 16 ページに先ほどの二つの地震の最大加速度はつきりと医事速度応答スペクトルの図を示しております。次のページが 2016 年鳥取県中部の地震、16 ページが 2018 年島根県成分の地震の図になります。
0:12:13	それで 17 ページをお願いいたします。
0:12:16	こちらは地震観測記録による応答スペクトル比の検討の方法について記載をしております。
0:12:24	地震計は岩盤中に設置されておりますので、観測記録には反射は影響が含まれておりますけれども、本検討では簡易的に反射は影響を無視しまして、観測記録を入射派とみなして検討を行っております。
0:12:38	マイナス 100mの観測記録を地下構造モデルの地震基盤相当面に人ほとして入力しまして、解放基盤表面で出力した場合の応答スペクトル比を確認をいたします。
0:12:52	その確認結果が 18 ページに記載をしております。
0:12:57	結果ですけれども音スペクトル評価行っておりまして赤線がSsーDの引き戻し班による応答スペクトル比で青線と緑の線で今回検討した観測記録に基づく応答スペクトル比を書いておりまして、
0:13:12	基準地震動SsーDの引き戻し範囲をよる応答スペクトル比と同程度であるということを確認しております。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:13:22	なんか 19 ページをお願いいたします。19 ページ、こちらは先ほどの音スペクトル比を考慮した標準応答スペクトルとSs-D真四角でございまして、こちらもすべて政府のDに包絡されるということを確認しております。
0:13:35	以上が妥当性確認として実施したSs-D以外の音スペクトル比を用いた検討になります。
0:13:44	最後 20 ページにまとめてございませけれども、実施した内容についてまとめてまとめを書いております。
0:13:51	二つ目の四角のところですけども、島根原子力発電所の解放基盤表面は1520メートル/sであるということを踏まえまして、地震基盤相当面から解放基盤表面までの地盤増幅特性を考慮して、非常に信頼施設のDと比較したと。
0:14:08	ということで、三つ目の四角のところの地盤増幅特性の考慮方法につきましては、Ss-Dってと、地震基盤相当面での基準地震動Ss-Dの引き戻し秦の応答スペクトル比を標準応答スペクトルに上手ると。
0:14:23	いう形で検討を行いまして、
0:14:26	時今地震基盤増幅特性を考慮した標準応答スペクトルは、Ss-Dに包絡されるということを確認いたしました。
0:14:34	四つ目の四角のところは、妥当性確認の内容書いておりまして、一つ目の検討SsのRI以外の基準地震動と二つ目の地震観測記録を用いた検討をこちらの検討を行いましても、応答スペクトル比はSs-Dを用いた場合と同程度となるということを確認いたしました。
0:14:51	さらに、時詐欺地盤増幅特性を考慮した老人オートスペクトル、
0:14:57	につきましても基準地震動Ss-Dに包絡されることを確認いたしました。
0:15:02	以上から、基準地震動の変更、島根原子力発電所では不要であるという判断をいたしました。
0:15:10	説明は以上でございます。
0:15:15	規制庁クマガエです。ご説明ありがとうございました。
0:15:20	ちょっと確認させてください。
0:15:24	御説明の中では地震基盤相当面上が2200m/s以上というふうに定義されているので、
0:15:32	今回は表情とスペクトルのところでは、
0:15:36	マイナス
0:15:38	DB-955mの
0:15:40	Vs2730m/sのところ、
0:15:43	地震基盤相当面として設定をされてそこに
0:15:47	きもとそこで引き戻しは押して引き戻しちゃう

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:15:50	入れて、
0:15:52	企画されたと。
0:15:53	いうことで、
0:15:55	応答スペクトル比を算出して、
0:15:58	Ssに包絡されると。
0:16:00	いうふうな御説明だったと思います。
0:16:05	それで
0:16:08	この地震観測記録による応答スペクトル比の検討も、
0:16:12	行われていて、
0:16:13	そこでも、
0:16:15	どう検討されてるんですけども。
0:16:18	ここでは地震基盤相当面と、
0:16:22	同程度の岩盤中に、
0:16:25	であるというところで地震計の設置位置としてはマイナス 500mのVs2190m/s、
0:16:33	ところに、
0:16:35	この地震計が設定されていて、その数値を
0:16:39	その観測記録を地震基盤相当面に入力していると。だからこのマイナス 500mの
0:16:45	Vs2190m/secのものを
0:16:50	マイナス 955mの
0:16:53	マイナス 2730m/sの地震基盤相当面、
0:16:57	に当たるものとして相当して入力して、
0:17:02	オートスペクトル比を算出してっていうふうに 17 ページとかではそういうふうに
0:17:06	されてるように思うんですけども。
0:17:12	地震県央設置位置ではマイナス 500mのところ、
0:17:17	それをこの地震基盤相当面マイナス 955mのところに、
0:17:21	入力されてるんですけども。
0:17:24	人基盤相当面っていうのは、説明あった通り 2200。
0:17:29	m/s、
0:17:32	以上のところに入れられるものなのかなと思ったんですがそこら辺はどういうふうにお考え。
0:17:38	考えていられてるんでしょう。
0:17:42	中国電力の井上です。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:17:45	はい、おっしゃる検討の方法についてはおっしゃる通りでございます、2部、大深度ボーリングのマイナス500mの記録VS2190のところの記録をお送り躍進観測記録の検討によって置いては、
0:18:00	実際にはマイナス955mのところに入れているということで、
0:18:06	弘12ページに書いております地震基盤相当面と同程度の岩盤中ということでこちらはどちらかというと、大手の解釈のほうで定義されているVs2200と同程度と言うそう、そういう。
0:18:21	こちらではそういう意味合いで書いているもの。
0:18:23	してそれよりも深いところにつきましては、
0:18:27	ちょっと本当は同じところに記録があればいいんですけども、そういうそれがないので、それより深いところはある程度均一な地盤が広がりをもって分布しているというふうに考えておりますので、
0:18:42	一つ下の葬儀地震基盤同じ地震基盤相当面ということで、こちらに入力しているということでございます。
0:18:50	以上です。
0:18:54	規制庁クマガエです。
0:18:56	ここは
0:18:58	マイナス100mのところから-955mのところ、
0:19:02	ちょっと距離があるんですけども、ここは、
0:19:05	均一な層になっていて広がりが
0:19:09	なっているのでそこは
0:19:11	人基盤相当面と同程度の岩盤中、
0:19:14	だというような考えで、
0:19:17	見られてる。
0:19:19	ということです。
0:19:20	よろしく。
0:19:22	中国電力のイノウエの上です。はい、おっしゃる通りでそれよりも下はもう地震基盤相当面と、
0:19:30	いえるということで、そういう検討をしております。以上です。
0:19:45	規制庁クマガエです。
0:19:47	あと、
0:19:53	規制庁クマガエです。そういうお考えてやるということについては、
0:19:58	確認できました津波ちょっともう
0:20:02	地下構造モデルについて、
0:20:04	もうちょっとお伺いしたいんですけども。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:20:11	12 ページのところでもいいんですけども。
0:20:15	。
0:20:17	当 345mから 955mのところは、
0:20:21	20092190m/sんですけどそっから浅いところ行くとまた 2532
0:20:29	S波速度が大きくなってまた、
0:20:31	そのあと 1770 ちゃうなんてでまたさらに行くと、2100 とかって、
0:20:38	大きくなったりちやくなっているようなしているようなところもあるんですけども。
0:20:44	この
0:20:45	マイナス 500 から -955mのところっていうのは、
0:20:49	これはもうほぼ、
0:20:51	あまりそういった影響というのはあんまりないような形になってるんでしょうか、 そこら辺はどのように、
0:20:55	確認されてるんですけど。
0:21:01	はい、中国電力の井上です。
0:21:04	マイナス 500MWのところですけども、ここから来マイナス 955 のところす けれども、左、このオレンジでかかっているものが大深度ボーリングの実際の PS検層の結果でございます、
0:21:18	こちらで言いますとマイナス 500 からマウス 908
0:21:22	81.5 と書いておりますけれども、PS検層で実際にこういった値が人ある程度 厚みを持って観測。
0:21:30	調査として調査結果として得られているというのがございます。先ほど
0:21:38	速度が上がったり下がったりという話でございましたけれども、こちらの 2530 のそうですけども、層圧約 30 メーターとあるんですけども、こちらにつきま しては、地質のも確認しますとこちらへって地質で言うとドレライトという地質で 勧誘がんで
0:21:58	が入ってきているということでそういったことが影響で今こういった 1 回小さくな って大きくなってとそういった状況になっているということになりますので、
0:22:10	先ほど、
0:22:11	提議いただき 190 よりも下についてはある程度広がりを持ってとびをもってきて ちゃんと人た結果としては確認できているということでございます。
0:22:22	以上です。
0:22:26	規制庁クマガエです。はい、考え確認できました。ありがとうございました。
0:22:37	規制庁サグチですけども、ちょっと先ほどのクマガエの質問のところ、ちょっ とさらにちょっと確認をさせていただきたいんですけど。
0:22:47	12 ページですね。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:22:50	12 ページと、それから、
0:22:53	17 ページは基本的に
0:22:56	全体通してこれって基本的には関連方式って言われてる家関連の 3 サイトでやったのと全く同じで、さらに位置付けとしては、そのSs1 やSfTかSSP以外のものを使っているのと、
0:23:12	地震記録を使って一応OSS11、※3SDによる送付を応能応答スペクトル比の妥当性を確認しましたという、多分そういう値づけで、
0:23:26	全く関連と同じようなやり方をされていると思ってるんで、ただ、今ちょっと
0:23:32	クマガエが先ほど言った 10、12 ページとか 17 ページの方ほうで関連はもう完全に 2400 ぐらいかな、所でとれた観測記録っていうのを使っていて、
0:23:45	で、御社は、
0:23:48	この 12 ページ 17 ページで 2100、90 という若干本当若干ですけど。
0:23:56	2200 以上のそうじゃないところでとれているものを使ってるんですけど、例えばですね。
0:24:03	結局 17 ページで簡易的にやってるんで、それぞれそのほど精緻なものじゃないんですよと言いつつもですね。
0:24:13	例えば一度、
0:24:16	マイナス 500 メーターをで取れたものを
0:24:19	マイナス 99915515 メーターのいわゆる地震基盤相当面に引き戻したものと、それから、
0:24:29	実際の
0:24:30	介護基盤
0:24:33	と比較するというようなことは考えられなかったのかなということと、
0:24:38	当然ながら、2190 と 2737 協会等があるので、
0:24:44	ここで増幅なり減衰なりいろいろ販社が起こったりするんで。
0:24:50	厳密に言うと、多分正しいのは一度、
0:24:53	2730 と。だからこの地震基盤相当面まで戻したやつと、
0:25:00	それから、解放基盤とっていうので、応答スペクトル比をとるっていうのが多分一番正確なやり方だと思うんですけど。
0:25:08	この 2190 ー相当 2730 ー添この
0:25:13	違いによる影響てほとんど、
0:25:15	参ってまず考えていいのかっていうのと、
0:25:19	それを何らかの形でちょっと検討っていうのか検証されているのかということとあと、
0:25:27	ほかの

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:25:29	例えば、留萌とか、そういうやつって、900 幾つの層をところでとられていて、このサイトっていうのは 1500 棟で 1600 だから速い層だからこれ直接、まあ保守的になるから直接入れますっていう、
0:25:45	にされてると思うんですけど。
0:25:48	そういった
0:25:49	関係ですよ。
0:25:51	VSが遅いところでとられたものを
0:25:55	早いところ二相に入れてあげるという、その関係でどうなってるかちょっと教えてもらっていいですか。
0:26:06	中国電力の井上です。
0:26:08	まず最初におっしゃられたですね 1 回 VS2730 のところに下げてという。検討ですけども、まさにですね、おっしゃられた点、検討が我々としてはそちらのほうが正しい。
0:26:24	思ってたんですけど実は最初はそういった検討もしております、こちら確認をしております、一応応答スペクトル比は ^o 程度に 1 回下げてあげるというやり方でやってもですね、音スペクトル比は同程度になると。
0:26:40	いうことは確認はしておりますけれども、ただ、また先行の資料を参考にこういった形でそのままマイナス 500 の記録をそのままマイナス 955 人入れるといった検討をこちらの資料としては、こういった形で出しているというところでございます。
0:26:59	先ほどの一つのルールもいいのが 900 のところで 1500 で保守的に入れてるっていうところにつきましては、
0:27:11	同様の考えで
0:27:16	2190 でとれた取れているものにつきましては、
0:27:23	2730 に入れるというところは保守的な内検討になっているというふうに考えております。
0:27:29	以上です。
0:27:33	はい、サグチです。
0:27:35	所先行サイトが冒頭加工とかっていうなくて御社は実際に本当にやって検討されてるんだったらそっちのが絶対的に正しいので、それで出していただいたほうがよりこう説明性が上がるのかなと一つは思いました。これ感想なんですけど。
0:27:51	それから、ちょっとね、二つ目はどうかかなと思ったのは、
0:27:55	保守的っていうことは、実はこれ大きいっていうことなんですよ。その大きいものを

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:28:03	要はスペクトル比でやるので。
0:28:05	分母にするってことはスペクトル比自体ってこれ小さくなるんですかね。
0:28:10	と思ったんですよ。だから、逆に言うと、
0:28:14	それって、非保守的な評価になってないかなとちょっと思ったんですけど。
0:28:19	だから、
0:28:21	その辺どうなんですかね。
0:28:27	本当は本当は 2000、2700 っていうのは、もうちょっと小さい地震動なんだけれども、
0:28:36	この 2100 名やつをちょっと大きめのやつを入れてあげちゃうってことはスペクトル比をとると、分母側がおっきな地震なんていうんで、スペックとして新着なのかなと思ったんですけど。
0:28:49	で、ちょっとお聞きしたんですけどまあ基本的に多分、
0:28:52	そんな変わらないっていうのが確認できているっていうこと本当に実際にじゃあ引き戻したものをやってってそういうを出していただけるんだったら別にそれはどうでもいい話
0:29:02	とは思いますが。あとですねちょっと
0:29:05	思ったんですけど、イノウエ先を御説明のときに、
0:29:13	例えば 5 ページとかでも全周期体で包絡されてるっていうご説明あったんですけど。
0:29:18	御説明にはもうさらっと何かDSsDに包絡されるみたいなことを書かれてという、いやもうぜ別に全然全中期待とにわたって包絡されたそれをご紹介いただいたほうがいいのかと思うんですけどそこはちょっとお任せしますマツすいませんちょっと感想とコメントになってしまいました。以上です。
0:29:39	中国電力の井上です。
0:29:41	先ほどの最初のご質問ですけれども、すいません確か引き費用取るので逆になるというのは確かにおっしゃる通りかと思えますけれども、先ほど当初引き戻して 955 に引き戻してという検討をやってまして。
0:29:59	それがもうほとんど変わらないという結果を見ましたので
0:30:04	で影響がないというふうに思っております、例えばそういう回答いたしましたけれども、こちらにつきましては、おっしゃる通り一家引き戻すというやり方が、我々としても正しいというふうに考えておりますので、そういった形で資料のほうは、
0:30:20	修正してですね、ださ出しタカハシしていただければと思います。
0:30:25	もう 1 点のすみません、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:30:29	5 ページの表現につきましても口頭で言ったことをこちらにお伝えしたいと考えます。以上です。
0:30:50	規制庁タニですけど、ちょっと 11 ページで、
0:30:56	オートスペクトル比の検討ということで、基準地震動いろんなものを見ていて、これ拡大してくれてるから、関係はよくわかるんですけど、ちょっと 1 もうちょっとですね加速度応答スペクトル比みたいなものを出してもらおうと。
0:31:14	その辺の細かな
0:31:16	比較もできるのかなって思って、その辺の整理はできます。
0:31:25	中国電力の井上です。
0:31:27	はい。加速度応答スペクトルにつきましても各図は可能ですので次回作としてはさを出したいと思います。以上です。はい、お願いします。
0:31:58	規制庁クマガエですけども、タジマさんも何かありましたらお願いいたします。
0:32:05	規制庁のタジマです。特にコメントございませんので、はい、結構です。
0:32:22	規制庁クマガエです。
0:32:24	それでは、規制庁側からですね確認したい内容については確認できましたので、
0:32:30	幾つかコメントさせていただいて
0:32:33	資料のほうもですね、修正していただけるということでしたので、資料修正できましたらまた御提出いただければと思います。
0:32:44	笑
0:32:45	資料の大体どれぐらいのめどでつくるのかって分かれば教えてください。
0:33:02	中国電力のイノウエですと、
0:33:05	こちらにつきましては 1 週間程度で時準備できるというふうに考えております。以上です。
0:33:24	設置をクマガエです。
0:33:27	では、資料はですねできましたらまた御でしていただければと思いますけども、
0:33:32	結構今、
0:33:33	いろいろとですね、確認するの他社も含めてですね、御社のご対応もそうなんですけども、いろいろと対応が立て込んでましてですね、すぐにこれ
0:33:45	ですとされたものをですねそこに
0:33:48	会合なりですねとかに行くのかどうかってのはまたちょっと調整が必要かと思しますので、そこでちょっと、
0:33:56	確認を念頭に置いてですね、よいていただければと思います。
0:34:02	とは何か

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:34:04	中国電力の方から何かありましたら、
0:34:07	お願いいたします。なければ終わりたいと思いますがいかがでしょうか。
0:34:13	中国電力の井上です。特にございません。以上です。
0:34:18	原子力規制庁クマガエです。
0:34:20	それでは本日の面談これで終了させていただきます。ありがとうございました。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。